

教科名	音楽科	校種	中学校
-----	-----	----	-----

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など, 授業の形態
1年	音楽	必	1.5	E
	音楽	必	1.5	A
2年	音楽	必	1	E
	音楽	必	1	A
3年	音楽	必	1	AE
	音楽	必	1	AG

科目名 (教科名)	音楽 (音楽科)				
担当教員	Nikolai Valov 金 智熙				
学年	1	単位数	1.5	必修・選択・展開	必修 Eコース

■ 授業の目的

*英語によるイマージョン授業を取り入れ、コミュニケーションとしての英語力を身につける。

1. 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける
2. 音楽を自分なりに評価しながら、よさや美しさを味わって聴くことができるようにする
3. 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	○歌い合わせ、聴き深める喜び 発声・歌唱『校歌』 ○さまざまな音楽文化 鑑賞『サウンドオブミュージック』 ○祈りのこころ・聖歌	・発声・呼吸のしくみ ・言葉の抑揚やリズム、旋律との関わりを感じ取る ・楽曲の背景となる文化・歴史の学習、鑑賞 ・聖歌による歌唱表現と祈りの心を育てる
2学期	○器楽 (ボディーパーカッション 他) ○歌唱 ○楽典	・基礎的な奏法 ・アンサンブルにおける表現力の向上 ・英語の歌詞の内容を理解した歌唱と的確な発音の習得 ・基礎的な知識の学習 (音名・階名・音符と休符・用語と記号)
3学期	○日本の文化 鑑賞・器楽 (邦楽：六段の調・箏) ○くらしと音楽	・楽曲の背景となる文化・歴史の学習、鑑賞 ・和楽器 (箏) の基本奏法 ・音楽著作権とインターネットについて

評価の 観点	知識・技能	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、それらを生かした音楽表現を創意工夫する過程で、新たな知識や技能を習得し、活用することができる
	思考・判断・表現	その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどがどのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを捉え、創意工夫をいかした音楽表現や創作表現、鑑賞をすることができる
	主体的に取り組む態度	音楽活動における創意工夫を生かし、他者と合わせて演奏する楽しさや喜びを実感しながら音楽を愛好する心情を育み、音楽に対する感性を豊かにし、豊かな情操を培おうとしている

評価の 方法と 割合	●評価方法：定期試験 (実技試験・学期末筆記試験は日本語と英語で出題する) と平常点 (提出物・小テスト等) により各学期の成績を算出する
	●割合：定期試験：70% 平常点：30%

教科書・ 副教材等	●教科書： 中学音楽1 「音楽のおくりもの」 教育出版 中学器楽 「音楽のおくりもの」 教育出版
	●副教材： 「聖歌集」 「英訳プリント (音楽のおくりもの 他)」

科目名 (教科名)	音楽 (音楽科)				
担当教員	金 智熙				
学年	1	単位数	1.5	必修・選択・展開	必修 Aコース

■ 授業の目的

1. 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける
2. 音楽を自分なりに評価しながら、よさや美しさを味わって聴くことができるようにする
3. 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	○歌い合わせ、聴き深める喜び 発声・歌唱『校歌』 ○祈りのこころ・聖歌 ○楽典	・発声・呼吸のしくみ ・強弱や音域に応じた歌い方の工夫 ・聖歌による歌唱表現と祈りの心を育てる ・基礎的な知識の学習 (音名・階名・音符と休符・用語と記号)
2 学期	○さまざまな音楽文化 日本語の抑揚・響きを大切に した歌唱 ○創作 ○器楽 (邦楽：箏)	・言葉の抑揚やリズム、旋律との関わりを感じ取る ・日本語の美しい響きを生かした表現 ・リズム曲の創作 ・ボディパーカッション ・和楽器の音色・音階・奏法の特徴を体感する ・和楽器 (箏) の基本奏法
3 学期	○鑑賞 (邦楽：六段の調) ○くらしと音楽	・楽曲の背景となる文化・歴史の学習、鑑賞 ・音楽著作権とインターネットについて
評価の 観点	知識・技能	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、それらを生かした音楽表現を創意工夫する過程で、新たな知識や技能を習得し、活用することができる
	思考・判断・表現	その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどがどのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを捉え、創意工夫をいかした音楽表現や創作表現、鑑賞をすることができる
	主体的に取り組む態度	音楽活動における創意工夫を生かし、他者と合わせて演奏する楽しさや喜びを実感しながら音楽を愛好する心情を育み、音楽に対する感性を豊かにし、豊かな情操を培おうとしている
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験 (実技試験・学期末筆記試験) と平常点 (提出物・小テスト等) により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：70% 平常点：30%	
教科書・副教材等	●教科書： 中学音楽1「音楽のおくりもの」教育出版 中学器楽「音楽のおくりもの」教育出版 ●副教材：「聖歌集」	

科目名 (教科名)	音楽 (音楽科)				
担当教員	Nikolai Valov 金 智熙				
学年	2	単位数	1	必修・選択・展開	必修 Eコース

■ 授業の目的

*英語によるイマージョン授業を取り入れ、コミュニケーションとしての英語力を身につける。

1. 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける
2. 音楽を自分なりに評価しながら、よさや美しさを味わって聴くことができるようにする
3. 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う

■ 授業計画

学期	授業の項目		内容
1 学期	○歌い合わせ、聴き深める喜び 発声・歌唱		・豊かな響き、英語の歌唱にあった発声法の取得 ・英語の歌詞の内容を理解した歌唱と的確な発音の習得
	○鑑賞		・音楽の構成の仕方や形式を理解した鑑賞
2 学期	○さまざまな音楽文化 器楽アンサンブル		・曲想と音楽の構造や曲の背景と関わりを理解した演奏 ・アンサンブルにおける表現力の向上 ・拍子や速度、曲の形式を生かした表現
	○楽典・ソルフェージュ		・基礎的な知識の学習 (音名・階名・音符と休符・用語と記号)
3 学期	○音楽とくらし・日本の文化 鑑賞 (雅楽: 越天楽)		・楽典の背景となる文化・歴史の学習、鑑賞 ・雅楽の特徴や表現の理解 (海外の人に雅楽を説明)
	○くらしと音楽		・音楽著作権とインターネットについて
評価の 観点	知識・技能	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、それらを生かした音楽表現を創意工夫する過程で、新たな知識や技能を習得し、活用することができる	
	思考・判断・表現	その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどがどのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを捉え、創意工夫をいかした音楽表現や創作表現、鑑賞をすることができる	
	主体的に取り組む態度	音楽活動における創意工夫を生かし、他者と合わせて演奏する楽しさや喜びを実感しながら音楽を愛好する心情を育み、音楽に対する感性を豊かにし、豊かな情操を培おうとしている	
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験 (実技試験・学期末筆記試験は日本語と英語で出題する) と平常点 (提出物・小テスト等) により各学期の成績を算出する ●割合：定期試験：70% 平常点：30%		
教科書・副教材等	●教科書： 中学音楽2・3上 下「音楽のおくりもの」教育出版 中学器楽 「音楽のおくりもの」教育出版 ●副教材：「聖歌集」		

科目名 (教科名)	音楽 (音楽科)				
担当教員	金 智熙				
学年	2	単位数	1	必修・選択・展開	必修 Aコース

■ 授業の目的

1. 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける
2. 音楽を自分なりに評価しながら、よさや美しさを味わって聴くことができるようにする
3. 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	○歌い合わせ、聴き深める喜び 発声・重唱 ○鑑賞	・豊かな響きのための発声法 ・旋律の重なり方や和音の響きを生かしたアンサンブル ・音楽の構成の仕方や形式を理解した鑑賞
2学期	○さまざまな音楽文化 日本の歌 (浜辺の歌) ○器楽 (邦楽：箏) ○楽典・ソルフェージュ	・歌詞が表す情景の表現と曲の背景の考察 ・拍子や速度、ピアノ伴奏の関わり、曲の形式を生かした歌唱表現 ・和楽器 (箏) の基本奏法 ・アンサンブルにおける表現力の向上 ・基礎的な知識の学習 (音名・階名・音符と休符・用語と記号) ・表現や鑑賞の音楽活動に生かす
3学期	○音楽 (邦楽) とくらし 鑑賞 (雅楽：越天楽) ○言葉と旋律のかかわり (早春賦) ○くらしと音楽	・楽曲の背景となる文化・歴史の学習、鑑賞 ・速度や旋律、強弱などの特徴の聴き取りと、全体の構成の確認 ・雅楽の特徴や表現の理解 ・歌詞の内容を味わい、形式を理解した表現 ・音楽著作権とインターネットについて
評価の観点	知識・技能	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、それらを生かした音楽表現を創意工夫する過程で、新たな知識や技能を習得し、活用することができる
	思考・判断・表現	その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどがどのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを捉え、創意工夫をいかした音楽表現や創作表現、鑑賞をすることができる
	主体的に取り組む態度	音楽活動における創意工夫を生かし、他者と合わせて演奏する楽しさや喜びを実感しながら音楽を愛好する心情を育み、音楽に対する感性を豊かにし、豊かな情操を培おうとしている
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験 (実技試験・学期末筆記試験) と平常点 (提出物・小テスト等) により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：70% 平常点：30%	
教科書・副教材等	●教科書： 中学音楽2・3上 下「音楽のおくりもの」教育出版 中学器楽 「音楽のおくりもの」教育出版 ●副教材：「聖歌集」	

科目名 (教科名)	音楽 (音楽科)				
担当教員	Nikolai Valov 金 智熙				
学年	3	単位数	1	必修・選択・展開	必修 Eコース

■ 授業の目的

*英語によるイマージョン授業を取り入れ、コミュニケーションとしての英語力を身につける。

1. 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける
2. 音楽を自分なりに評価しながら、よさや美しさを味わって聴くことができるようにする
3. 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	○発声・合唱 歌唱	・豊かな響き、英語の歌唱にあった発声法の取得 ・言葉と旋律・ピアノ伴奏の関わりと効果の体感
	○鑑賞 (海外伝統音楽)	・楽曲の背景となる文化・歴史の学習、鑑賞
2学期	○音楽とくらし・日本の文化 沖縄の音楽・外国の歌	・沖縄の歴史、文化、楽器、音楽の総合的学習 ・平和の尊さ、心の結び合いの素晴らしさについて考える ・英語と他言語の違いを意識した歌唱
	○楽典・ソルフェージュ	・基礎的な知識の学習 (各国の音名・階名・音符と休符・用語と記号) を、表現や鑑賞の音楽活動に生かす
3学期	○さまざまな音楽文化 器楽アンサンブル	・曲想と音楽の構造や曲の背景と関わりを理解した演奏 ・アンサンブルにおける表現力の向上 ・拍子や速度、曲の形式を生かした表現
	○くらしと音楽	・音楽著作権とインターネットについて
評価の 観点	知識・技能	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、それらを生かした音楽表現を創意工夫する過程で、新たな知識や技能を習得し、活用することができる
	思考・判断・表現	その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどがどのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを捉え、創意工夫をいかした音楽表現や創作表現、鑑賞をすることができる
	主体的に取り組む態度	音楽活動における創意工夫を生かし、他者と合わせて演奏する楽しさや喜びを実感しながら音楽を愛好する心情を育み、音楽に対する感性を豊かにし、豊かな情操を培おうとしている
評価の 方法と 割合	<p>●評価方法：定期試験 (実技試験・学期末筆記試験は日本語と英語で出題する) と平常点 (提出物・小テスト等) により各学期の成績を算出する。</p> <p>●割合：定期試験：70% 平常点：30%</p>	
教科書・ 副教材等	<p>●教科書： 中学音楽2・3上 下「音楽のおくりもの」教育出版 中学器楽 「音楽のおくりもの」教育出版</p> <p>●副教材：「聖歌集」</p>	

科目名 (教科名)		音楽 (音楽科)			
担当教員		金 智熙			
学年	3	単位数	1	必修・選択・展開	必修 Aコース

■ 授業の目的

1. 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける
2. 音楽を自分なりに評価しながら、よさや美しさを味わって聴くことができるようにする
3. 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う

■ 授業計画

学期	授業の項目		内容
1 学期	○発声・歌唱		<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな響きのための発声法と発表による音楽表現の積極性 ・言葉と旋律・ピアノ伴奏の関わりと効果の体感
	○楽典・ソルフェージュ		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識の学習 (音名・階名・音符と休符・用語と記号) ・表現や鑑賞の音楽活動に生かす
2 学期	○邦楽—沖縄の音楽にふれる 歌唱・楽器・創作		<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の歴史、文化、楽器、音楽の総合的学習 ・平和の尊さ、心の結び合いの素晴らしさについて考える
	○曲想の変化を生かした表現 器楽 (ギター) イタリア歌曲 (帰れソレントへ)		<ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器の基本奏法 ・アンサンブルにおける表現力の向上 ・気候風土、民族楽器、気質による各国の音楽特性の比較 ・イタリアの歴史、文化、音楽の総合的学習
3 学期	○音楽とくらし 鑑賞 (オーケストラ)		<ul style="list-style-type: none"> ・独奏楽器とオーケストラの関係を理解する ・独奏楽器の音色や奏法の特徴を聴き取る
	○歌唱		<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞に自己の想いを込め、速度、強弱の変化を生かした表現
	○くらしと音楽		<ul style="list-style-type: none"> ・音楽著作権とインターネットについて
評価の 観点	知識・技能	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、それらを生かした音楽表現を創意工夫する過程で、新たな知識や技能を習得し、活用することができる	
	思考・判断・表現	その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどがどのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを捉え、創意工夫をいかした音楽表現や創作表現、鑑賞をすることができる	
	主体的に取り組む態度	音楽活動における創意工夫を生かし、他者と合わせて演奏する楽しさや喜びを実感しながら音楽を愛好する心情を育み、音楽に対する感性を豊かにし、豊かな情操を培おうとしている	
評価の方法と割合	<p>●評価方法：定期試験 (実技試験・学期末筆記試験) と平常点 (提出物・小テスト等) により各学期の成績を算出する。</p> <p>●割合：定期試験：70% 平常点：30%</p>		
教科書・副教材等	<p>●教科書： 中学音楽2・3上 下「音楽のおくりもの」教育出版 中学器楽 「音楽のおくりもの」教育出版</p> <p>●副教材：「聖歌集」</p>		